

研究・調査報告書

報告書番号	担当
447	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of cardiovascular disease among hypertensive women. 女性高血圧者における飲酒と循環器疾患リスク	
執筆者	
Bos S, Grobbee DE, Boer JM, Verschuren WM, Beulens JW.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Cardiovasc Prev Rehabil. 2010 Feb;17(1):119-26.	
キーワード	
飲酒、循環器疾患、女性、高血圧	
要 旨	
目的： 女性高血圧者における飲酒と循環器疾患リスクを明らかにする。	
方法： EPIC-NL コホートにおいて 10,530 人の女性高血圧者を対象にして、食事摂取頻度の質問票により評価した飲酒量と循環器疾患の発症リスクの関連を検討した。コックス回帰モデルにて、飲酒による純循環器疾患発症の多変量調整ハザード比を算出した。	
結果： 平均追跡期間 9.4 年の間に冠動脈疾患発症 580 例、脳卒中 254 例（そのうち脳梗塞は 165 例）を確認した。飲酒量と冠動脈疾患発症リスクは負の関連を認め ($P=0.009$)、非飲酒者と比較すると、一週間あたり 70-139.9g 飲酒する者の冠動脈疾患発症の多変量調整ハザード比 HR(95%信頼区間)は 0.72(0.52-1.01)であった。アルコールの種類別に検討すると、赤ワインのみが冠動脈疾患発症リスクの減少との関連を認めた。また、脳卒中発症リスクは飲酒量と U 字型の関連を認め、一週間あたり 5-69.9g 飲酒する者の脳卒中発症ハザード比は非飲酒者と比較すると 0.65(0.44-0.95)であった。脳梗塞発症についても同様の関連が認められ、一週間あたり 5-69.9g 飲酒する者の脳梗塞発症ハザード比は非飲酒者と比較すると 0.56(0.35-0.89)であった。	
結論： 高血圧女性においても、中等量の飲酒は冠動脈疾患発症リスクの減少をもたらすことを確認した。また、少量飲酒も脳卒中発症リスクの低下と関連する傾向にある。一般集団に対するアルコール量についてのガイドラインは高血圧女性についても適用できる。	